（令和３年度第１回理事会・評議員会 資料　6/10 開催）

別添資料１

一般社団法人　日本臨床救急医学会

各種委員会

活動報告（令和２年度）

活動計画（令和３年度）

JAPANESE SOCIETY FOR EMERGENCY MEDICINE

令和３年６月

一般社団法人　日本臨床救急医学会
各種委員会 活動報告(令和2年度)・活動計画(令和3年度)　目次

1	編集委員会	P.1
	1)　バックナンバー査読特別小委員会	P.2
2	総務委員会	P.3
	1)　東京オリンピック・パラリンピックに係る救急災害医療体制のための小委員会	P.4
	2)　高齢者救急に関する小委員会	P.5
	3)　災害支援としての院外画像検査活動体制についての検討小委員会	P.6
	4)　新型コロナウイルス感染症の入院基準策定に係る検討小委員会	P.7
3	メディカルコントロール検討委員会	P.8
	1)　新型コロナウイルス対応検討WG	
4	会則検討委員会	P.14
5	教育研修委員会	P.15
	1)　PEMEC検討小委員会	P.16
	2)　救急・集中治療における薬剤師研修コース運営小委員会	P.17
	3)　J-MELS企画開発小委員会	P.18
	4)　JTAS2017企画運営小委員会	P.19
	5)　ISLS2018検討小委員会	P.20
	6)　入院時重症患者対応メディエーター養成小委員会	P.21
	7)　NAEMT教材開発・コース運営小委員会	P.22
	8)　循環器救急疾患の病院前救護検討小委員会	P.23
6	評議員選出委員会	P.24
7	広報委員会	P.25
8	公益信託丸茂救急医学研究振興基金運営委員会	P.26
9	学校へのBLS教育導入検討委員会	P.27
10	自殺企図者のケアに関する検討委員会	P.28
	1)　PEEC2018改定WG	
	2)　病院前救護における自殺企図者のケア方法を普及させるためのWG	P.29
	3)　妊産婦の自殺予防のためのWG	P.30
	4)　COVID-19流行期におけるPEECコース再開のための小委員会	P.31
11	国際委員会	P.32
12	救急認定薬剤師認定委員会	P.33
13	緊急度判定体系のあり方に関する検討委員会	P.34
14	研究倫理委員会	P.35
15	小児救急委員会	P.36
	1)　病院前救護における小児緊急度判定および小児救急診療を普及させるためのWG	P.37
16	患者安全検討推進委員会	P.38
	1)　RRT-WG	P.39
17	傷病者の意思に沿った救急現場での心肺蘇生のあり方に関する検討委員会	P.40
18	法執行機関との医療連携のあり方に関する検討委員会	P.41
	1)　研修コース等検討小委員会	
19	蘇生ガイドライン2020委員会	P.42
	1)　二次救命処置WG	P.43
	2)　ファーストエイドWG	P.44
	3)　バイスタンダーサポート検討小委員会	P.45
	4)　妊産婦蘇生WG	P.46

一 般 社 団 法 人　日 本 臨 床 救 急 医 学 会

【編集委員会】

報告日：令和３年６月 10 日

【委 員 長】行岡　秀和

【担当理事】佐藤　憲明

【活動内容】（令和２年４月１日～令和３年３月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

（開催日）　　（議事内容）

令和２年 8 月 28 日　「令和元年度活動報告/令和２年度活動計画/査読体制について/オンライン投稿・査読システムの運用について/バックナンバー査読特別小委員会について/メディカルオンラインについて」

2.　報告内容

Ⅱ　会誌編集・発行状況

第 23 巻の第 1～6 号，（第３号は総会号）を発刊した。

●受付原稿数　（　）内は総会発表演題の推薦投稿論文数

総　説	1	本	（	0	）本
原　著	25	本	（	6	）本
調査・報告	27	本	（	12	）本
症例・事例報告	23	本	（	4	）本
資　料	0	本	（	0	）本
研究速報	1	本	（	0	）本
Letter to editor	0	本	（	0	）本
不明(未確定)	0	本	（	0	）本
合　計	**77**	**本**	**（**	**22**	**）本**

●原稿など掲載状況（第 23 巻 1,2,4～6 号）

総　説	2	本	（	12	）頁
原　著	22	本	（	151	）頁
調査・報告	34	本	（	208	）頁
臨床経験	0	本	（	0	）頁
症例・事例報告	15	本	（	73	）頁
資　料	3	本	（	45	）頁
研究速報	1	本	（	2	）頁
Letter to editor	0	本	（	0	）頁
その他	0	本	（	0	）頁
会告など			（	63	）頁
合　計	**77**	**本**	**（**	**554**	**）頁**

●原稿受付より掲載までの期間（単位：日）23 巻

【オンライン】

受付～受理	最短 42	最長 857	平均 334.7
受理～掲載	最短 32	最長 153	平均 73.9
受付～掲載	最短 83	最長 959	平均 405.7

【紙媒体】

受付～受理	638
受理～掲載	162
受付～掲載	800

●投稿者所属内訳　（第 23 巻 1，3～6 号）受付　　掲載

医師	42	名	42	名
薬剤師	2	名	6	名
看護師	4	名	3	名
救急救命士・消防職員	27	名	22	名
その他	2	名	4	名

〔受付〕その他 2 内訳（診療放射線技師 1,臨床検査技師 1）

〔掲載〕その他 4 内訳（ソーシャルワーカー1,診療放射線技師 2，臨床検査技師 1）

●令和２年受付投稿論文の投稿別内訳および査読状況

（令和３年 4 月 30 日現在）

投稿数	77	本
採用	41	本
不採用	12	本
査読 or リライト中	24	本
取り下げ	0	本

●第 23 回臨床救急医学会総会・学術集会　座長推薦

	演題数	推薦数	執筆承諾
■シンポジウム	120	42	36
■パネルディスカッション	88	29	36
■ワークショップ	48	16	7
■教育講演他	18	0	0

➡ 実際の投稿：　合計　18

※一般演題（口演）・ポスターは抄録発表のみのため、全演題に論文投稿を呼びかけ

（令和３年５月１日現在）

【活動計画】（令和３年４月１日～令和４年３月 31 日）

１．学会雑誌の編集・発行：第 24 巻２号（抄録号），３号，４号，５号，６号，第 25 巻１号

（電子媒体 J-STAGE での掲載，抄録号は冊子体で発行）

２．編集委員会の開催：　　第 37 回：６月～７月下旬開催予定

３．オンライン投稿・査読改修：適宜オンライン投稿・査読システムを整備し、より円滑な運営を進める

以上

一 般 社 団 法 人　日 本 臨 床 救 急 医 学 会

【バックナンバー査読特別小委員会】

報告日：令和 3 年 6 月 10 日

【委 員 長】奥寺　敬

【活動内容】（令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日迄）

1. 委員会開催日および議事内容
   活動なし

【活動計画】（令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日）

・J-STAGE へのバックナンバー掲載について、編集委員会とともに検討

・オンライン文献データベースに論文を登録する場合の倫理規定上の問題点への対応を編集委員会とともに検討

以上

【総務委員会】

報告日：令和３年６月 10 日

【委 員 長】福島　英賢

【担当理事】溝端　康光

【活動内容】（令和２年４月１日～令和３年３月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

（開催日）	（議事内容）
令和２年８月 24 日（Web 開催）	例年実施している参加者および評議員アンケートの継続と活用について

2.　報告内容

第 23 回総会参加者アンケートを現在集計中。

一般社団法人　日本臨床救急医学会

【東京オリンピック・パラリンピックに係る救急災害医療体制のための小委員会】

報告日：令和3年6月10日

【委 員 長】溝端　康光

【担当理事】溝端　康光

【活動内容】（令和2年4月1日～令和3年3月31日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

（開催日）　　（議事内容）

なし

2.　報告内容

・2020東京オリンピック・パラリンピックに係る救急・災害医療体制検討合同委員会

第13回　令和2年7月9日

第14回　令和2年10月26日

第15回　令和3年2月5日

第16回　令和3年5月6日

日本臨床救急医学会からの提言等

- 新型コロナウイルス感染症流行期における発熱・呼吸器症状などを主訴とする患者の緊急度・重症度判定基準（Version 1）
- 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う心肺停止傷病者への対応について（消防機関による対応ガイドライン）
- 新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた熱中症予防に関する提言
- COVID-19の流行を踏まえた競技会場におけるファーストレスポンダーの活動について

【活動計画】（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

- AC2020において、これまでに参加団体が作成した成果物を出版することとなり、日本臨床救急医学会がその取りまとめを担当する。

一般社団法人　日本臨床救急医学会

【　高齢者救急に関する小委員会　】

報告日：令和３年６月１０日

【委 員 長】伊藤重彦

【活動内容】（平成２年４月１日～令和３年３月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

2.

・委員会の開催実績なし

2.　報告内容

・小委員会として、研究、調査等活動実績なし

・当学会が参加している「高齢者救急問題を検討する懇話会」の開催なし

【活動計画】（令和２年４月１日～令和３年３月 31 日）

１）小委員会の開催について

第 24 回臨床救急医学会期間中含めて、年度内に１～２回の WEB 会議開催予定

２）「高齢者救急問題を検討する懇話会」について

「高齢者救急問題を検討する懇話会」が今年度開催された場合には、昨年度臨床救急医学会がまとめた高齢者救急の課題を提案し、協議する予定

３）今後取り組む予定の調査・研究、課題について

（１）課題について

・地域包括ケアシステムにおける「在宅から医療機関へのアクセス手段」に関する協議を委員会ですすめる

（２）調査・研究について

①DNAR について

・DNAR、ACP への取組、特に患者・家族サイドへの意識調査

・高齢者施設への入所者 CPA 時対応の現状調査（平成 28 年度消防庁研究アンケート結果との比較）

②コロナ渦の発熱者の搬送・受入れ

・コロナ渦の自宅、施設等からの発熱者の医療機関受入れ状況の地域差調査（会員向け調査）

・コロナ渦の発熱傷病者の搬送で、消防機関が知りたい傷病者情報（消防機関向け調査）

一般社団法人　日本臨床救急医学会

【災害支援としての院外画像検査活動体制についての検討小委員会】

報告日：令和３年６月 10 日

【委 員 長】　林　宗博

【活動内容】（令和３年２月１日～令和３年３月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

令和２年度第２回理事会におきまして，災害支援としての院外画像検査活動体制について検討する会議体の設置を理事会にてご承認を賜り、第３回理事会において総務委員会下にて当小委員会の設置の承認を得て発足致しました。

令和２年度の活動はございません。

2.　報告内容

設置概要は以下の通りです。

1)　名称：災害支援としての院外画像検査活動体制についての検討小委員会
2)　活動目的：災害時における院外画像検査体制について検証し整備する
3)　活動内容：院外画像検査体制の現状を精査し，
活動体制の構築，指針，教育プログラムの作成等を行う
4)　設置期間：２０２１年２月１日～２０２３ 年２月
5)　年間活動予定：会議開催（数回/年）

委員長および委員名簿：

役 職	氏名	勤務先
委員長	林　宗博	日本赤十字社医療センター　救急科部長／救命救急センター長
委員	高階 謙一郎	京都第一赤十字病院　救命救急センター長
委員	早野　大輔	労働者健康安全機構　関東労災病院　救急・集中治療科　部長
委員＊	西池　成章	りんくう総合医療センター 放射線技術科
委員＊	中田　正明	兵庫県災害医療センター/神戸赤十字病院　放射線課
委員＊	小野　欽也	川崎市立川崎病院　放射線診断科　放射線管理室
委員＊	小西　英一郎	独立行政法人国立病院機構 災害医療センター中央放射線部
委員＊	宮安　孝行	神戸赤十字病院　放射線科部

＊診療放射線技師

【活動計画】（令和３年４月１日～令和４年３月 31 日）

今年度より、過去の災害時の画像検査実績を検証しながら、今後の在り方について検討を進めてまいります。

【 新型コロナウイルス感染症の入院基準策定に係る検討小委員会】

報告日：令和 3 年 6 月 10 日

【委 員 長】　櫻井　淳

【活動内容】（令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容（Web にて会議）

（開催日）	（議事内容）
令和 2 年 1 月 27 日	新型コロナ感染症サージ期における入院の緊急度策定の方向性
令和 2 年 2 月 10 日	入院基準策定にかかる資料検討
令和 2 年 2 月 17 日	入院基準案 検討
令和 2 年 3 月 3 日	入院基準案 最終版作成

2.　報告内容

厚生労働省の「診療の手引き」や、欧米の新型コロナ感染症入院適応基準に関する文献報告を参考に、一気に多数の感染者が増加する「サージ（surge）」期における入院基準案を策定した。

【活動計画】（令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日）

状況に応じて会議を開催する予定である。

一般社団法人　日本臨床救急医学会

【メディカルコントロール検討委員会】

報告日：令和３年６月 10 日

【委 員 長】　田邉　晴山

【担当理事】　森村　尚登

【活動内容】（令和２年４月１日～令和３年３月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

- 4～6 月　新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ対応検討 WG の複数回のｵﾝﾗｲﾝ会議
  - COVID-19 の拡大に伴う院外心停止患者への対応（医療機関用）について
  - COVID-19 の拡大に伴う心肺停止傷病者への対応（消防機関用）について
  - 消防機関用ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝに沿った動画の作成について
  - COVID-19 の流行に伴う救急・災害医療に関わる研修ｺｰｽの開催について（ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ）案
- 6～12 月　MC 検討委員会の計８回のｵﾝﾗｲﾝ会議
  - 救急業務におけるｵﾝﾗｲﾝ MC 体制の実態調査について
  - ｵﾝﾗｲﾝ MC 体制の指標案の作成について

2.　報告内容

- 新型コロナウイルス対応

①　「新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症の拡大に伴う心肺停止傷病者への対応について（消防機関による対応ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ）」を公表　→　消防庁から全国に通知された（資料①）

②　上記ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝの内容を説明する動画の作成・監修（合計４万回超の視聴）（資料②）

③　COVID-19 の流行に伴う救急・災害医療に関わる研修ｺｰｽの開催について（ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ）案を作成（教育研修委員会と合同）→環境感染学会に内容確認→東京ｵﾘﾊﾟﾗｺﾝｿｰｼｱﾑより公表（資料③）

- メディカルコントロール体制

④　救急業務におけるオンライン MC 体制の実態調査を実施
→消防庁のオンライン MC 検討作業部会で調査結果を説明（資料④）

⑤　オンライン MC 体制の指標案を作成→消防庁の通知に反映

【活動計画】（令和３年４月１日～令和４年３月 31 日）

１．　委員会の役割

救急医療におけるﾒﾃﾞｨｶﾙｺﾝﾄﾛｰﾙに関わる調査の実施、提言・ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝの策定、教育、関係団体との協力活動を通じて、救急医学・救急医療の進歩、発展、普及を図る。

２．計画

①　救急業務におけるｵﾝﾗｲﾝ MC 体制の実態調査の論文化

②　「救急救命士の養成課程における病院実習ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ」の策定（新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽの状況をみながら）

（③　新型コロナウイルスに関する臨時的な対応）

消防救第 109 号
令和２年４月 27 日

各都道府県消防防災主管部（局）長　殿

消防庁救急企画室長
（ 公 印 省 略 ）

心肺停止の新型コロナウイルス感染症患者及び新型コロナウイルス感染症が疑われる傷病者に係る消防機関における対応について

消防機関における新型コロナウイルス感染症への対応については、これまで「新型コロナウイルス感染症に係る消防機関における対応について」（令和２年２月４日付け消防消第26号消防庁消防・救急課長、消防救第28号消防庁救急企画室長通知）等により、的確な対応をお願いしているところです。

こうした中、今般、一般社団法人日本臨床救急医学会より、心肺停止の新型コロナウイルス感染症患者及び新型コロナウイルス感染症が疑われる傷病者（以下「新型コロナウイルス感染症患者等」という。）に対して救急隊が実施する心肺蘇生についての注意事項等を最新の学術的知見に基づき取りまとめた「新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う心肺停止傷病者への対応について（消防機関による対応ガイドライン）」（別添２。以下「ガイドライン」という。）の提示並びにガイドラインの全国の消防本部への周知及び活用に係る提言（別添１）が、消防庁に対してありました。

つきましては、当該提言の緊急性に鑑み、ガイドラインを別添２のとおり情報提供しますので、貴部（局）におかれましては、下記の内容に御留意の上、貴都道府県内市町村（消防の事務を処理する一部事務組合等を含む。）に対して、この旨を周知されますようお願いします。

なお、本通知は、厚生労働省と協議済みであるとともに、消防組織法（昭和22年法律第226号）第37条の規定に基づく助言として発出するものであることを申し添えます。

記

１　ガイドラインに記載された主な学術的知見（心肺停止の新型コロナウイルス感染症患者等へ救急隊が対応する際に留意すべき事項）

・　胸骨圧迫、人工呼吸、気管挿管などの気道確保、気管吸引、異物除去などは大量のエアロゾルを発生させるため心肺停止傷病者への対応にあたって

YouTube JP
臨床救急医学会
フィルタ
日本臨床救急医学会
日本臨床救急医学会
MC検討委員会
チャンネル登録者数 596人・9本の動画
一般社団法人日本臨床救急医学会 メディカルコントロール検討
チャンネル登録
日本臨床救急医学会 MC検討委員会 の最新の動画をお見逃しなく
1-1　119入電時の聴取　例 1 Ver.1.0
1万 回視聴・11 か月前
日本臨床救急医学会 MC検討委員会
感染防止対策は通信指令の段階から始まる。 通信指令員は、傷病者に新型コロナウイルス感染症の可能性の有無に
3:51
5-1　LTを使用した気道確保　例 1 Ver.1.0
4179 回視聴・11 か月前
日本臨床救急医学会 MC検討委員会
傷病者の呼気のエアリークを最小限にするため早期に器具を用いた気道確保を行うことが望ましい。ただし、迅速、
1:55
6　ビデオ喉頭鏡を使用した気管挿管　例　Ver.1.0
5753 回視聴・11 か月前
日本臨床救急医学会 MC検討委員会
傷病者の呼気のエアリークを最小限にするため早期に器具を用いた気道確保を行うことが望ましい。ただし、迅速、
2:23

Ver.1.0：新型コロナウイルス感染症に関する新たな知見や感染の広がり状況などよって更新する場合があります。最新版は当学術連合体のウェブサイト（http://2020ac.com/）をご確認ください。

メディカルコントロール検討委員会

資料③

令和２年７月９日

新型コロナウイルス感染症の流行に伴う救急・災害医療に関わる研修の開催指針（ガイドライン）

2020 年東京オリンピック・パラリンピックに係る
救急・災害医療体制を検討する学術連合体

1.　はじめに

これまで 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに係る救急・災害医療体制を検討する学術連合体（以下、コンソーシアム）は、大会組織委員会とともに、医療スタッフや大会ボランティア等を対象とした救急・災害医療に関する研修コースを開催し、関係者の資質向上に努めてきた。

昨今の新型コロナウイルス感染症の流行は、このような研修コースの開催を事実上不可能とした。それは、これらの研修の実施が新型コロナウイルスの感染リスクとなること、また研修の受講生や講師等（以下、参加者）には医療等関係者が多く、感染症が発生した場合には多数の医療機関、ひいては地域の医療提供体制にまで影響を及ぼしかねないことなどが理由である。同様の状況は、東京オリンピック・パラリンピックに関わる研修コースのみならず救急・災害医療に関わる各種研修コースの大半に及んだ。今般、これらの再開が検討されているところである。

他方、政府の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」（令和２年５月４日改訂）等では、各関係団体等は、業種や施設の種別毎にガイドラインを作成するなど、自主的な感染予防のための取組を進めることとされている。

このような状況を踏まえて、本ガイドラインは、東京オリンピック・パラリンピックに係る救急・災害医療に関する研修コースについて、新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた参加者の安全性の確保に配慮した開催のあり方について、基本的事項を示すものである。しかし、それでもなお新型コロナウイルスの発生の可能性をなくすまでには至らない。そのため、参加者に新型コロナウイルス感染が判明した場合の対応についても付記している。

本ガイドラインは、東京オリンピック・パラリンピックに係る救急・災害医療に関する研修に限らず本コンソーシアムを構成する各医療関係団体が関わる種々の救急・災害医療に関する集合研修や、消防関係機関、日本赤十字社などの一般市民を対象とした救命講習、DMAT など災害医療に関わる研修等においても活用できる。その際には、研修コースごとの特性に合わせ、主催者の判断で適宜修正いただきたい。

作成

2020 年東京オリンピック・パラリンピックに係る

救急・災害医療体制を検討する学術連合体

●学術連合体の構成団体

日本救急医学会、日本外傷学会、日本集中治療医学会、日本災害医学会、日本中毒学会、日本熱傷学会、日本臨床救急医学会、日本救急看護学会、東京都医師会、日本小児科学会、日本臨床スポーツ医学会、日本 AED 財団、日本蘇生学会、日本救護救急学会、日本航空医療学会、日本感染症学会、日本外科学会、日本環境感染学会、日本整形外科学会、日本病院前救急診療医学会、日本脳神経外傷学会、日本クリティカルケア看護学会、日本麻酔科学会、日本精神神経学会、JPTEC 協議会、日本形成外科学会、全国救急救命士教育施設協議会

●ドラフトの作成

AC2020 合同委員会教育研修検討委員会
一般社団法人　日本臨床救急医学会
一般社団法人　日本環境感染学会

〇ドラフト・骨子の作成にご協力、ご助言いただいた方々

日本臨床救急医学会 MC 検討委員会・WG（田邉晴山、森田正則、荒井勲（全国消防長会救急委員会）、武久伸輔（日本赤十字社）、脇田佳典、横田順一朗、木下順弘、小林誠人、今井寛、高階謙一郎、山村仁、森村尚登）、同教育研修委員会（松田潔、山崎元靖、久保田稔、石井恵利佳、黒住晃、豊田泉、遠藤智之、日野耕介、三宅康史）、日本環境感染学会（加來浩器、菅原えりさ）、AC2020 合同委員会教育研修検討 WG（森村尚登、武田聡、庄古知久、井上貴昭、田邉晴山）
JPTEC 協議会（坂本哲也、松田潔、張替喜世一、安田康晴）、日本救急医学会 ICLS コース企画運営委員会（畑田剛）、同 JATEC コース企画運営委員会（冨岡譲二）、厚生労働省 DMAT 事務局（小井土雄一）

救急業務におけるメディカルコントロール体制のあり方に関する
ワーキンググループ（第３回）
議　事　次　第

日　時：令和３年１月 25 日（月）　15 時 00 分 ～ 17 時 00 分
場　所： WEB 方式による会議開催

１．開　会
２．挨　拶（消防庁救急企画室長）
３．委　員　紹　介
４．議　事
（１）救急業務におけるメディカルコントロール体制のあり方について
　○これまでの振り返り
　○小会合の報告
　　・オンラインメディカルコントロール小会合
　　・再教育小会合
　○事後検証の活用について
　○メディカルコントロール体制の役割について
　○スケジュール
（２）その他
５．閉　会

【配布資料】
・次第、タイムスケジュール、出席者名簿
・救急業務のあり方に関する検討会開催要綱
・救急業務におけるメディカルコントロール体制のあり方に関するワーキンググループ委員名簿
・資　料　１　　救急業務におけるメディカルコントロール体制のあり方
・参考資料１－１　第３回オンラインＭＣに関する小会合資料
　（オンラインＭＣの検討）
・参考資料１－２　第３回オンラインＭＣに関する小会合資料
　（日本臨床救急医学会 MC 検討委員会ご発表資料）
・参考資料２－１　第３回再教育に関する小会合資料
　（再教育の検討）
・参考資料２－２　第３回再教育に関する小会合資料
　（経験教育振り返りシート（案））

【会則検討委員会】

報告日：令和３年　６月　１０日

【委員長兼担当理事】　藤見聡

【活動内容】（令和２年４月１日～令和３年３月 31 日迄）

活動なし

【活動計画】（令和３年４月１日～令和４年３月 31 日）

会則改訂に関する新たな検討事項がない限り，活動計画は特になし。

一般社団法人　日本臨床救急医学会

【　教育研修委員会　】

報告日：令和３年６月１０日

【委 員 長】　山崎　元靖　（　代行　松田　潔　）

【担当理事】　松田　潔

【活動内容】（令和２年４月１日～令和３年３月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

（開催日）	（議事内容）
令和２年６月 14 日 メール持ち回り	委員長代行の承認 「COVID-19 感染に伴う研修コースのガイドライン」審議、承認
令和２年８月 28 日	委員会開催を予定していたが、総会学術集会の完全 web 開催変更に伴い中止

2.　報告内容

・臨床教育開発推進機構（ODPEC）への業務委託について
JTAS が 2019 年度、PEEC、PEMEC が 2020 年度に ODPEC にコース開催を業務委託した。
新型コロナウィルス感染拡大に伴い、コースのリモート研修への移行を進めて行くとの報告を受けている。

・その他のコース開発、運営も新型コロナウィルス感染拡大に伴い、停滞している。

【活動計画】（令和３年４月１日～令和４年３月 31 日）

令和３年６月 10 日の理事会で新委員長決定後、新委員を決定し、第１回教育研修委員会を開催し、以下の事項を審議する予定

・各小委員会による教育研修コース開発運営、リモート化
・臨床教育開発推進機構（ODPEC）への業務委託状況

【　PEMEC 検討小委員会　】

報告日：令和 3 年 6 月 10 日

【委 員 長】溝端　康光

【活動内容】（令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

（開催日）	（議事内容）
令和 2 年 7 月 30 日	令和 2 年度コース開催について
令和 3 年 3 月 16 日	PEMEC コース運営に伴う ODPEC への業務移管について

2.　報告内容

①　令和 2 年度 PEMEC コース開催

- 令和 2 年度の PEMEC コースの開催申請受付を行ったが、新型コロナウイルス流行のなか、会場の手配、感染対策等を含め、申請者に改めて意向を確認した。
- 開催にあたっては、東京オリパラコンソーシアムの研修会開催指針を遵守することとした。
- コース現地参加者（受講生、インストラクター）は都道府県内に制限することとし、都道府県外からのディレクター参加（PEMEC 委員）はオンラインで講義することとした。
- 令和 2 年度 PEMEC コースとして、合計 6 回のコースが開催された。
- 第 23 回日本臨床救急医学会、第 48 回日本救急医学会でのプレコングレスコースは開催しなかった。

②　令和 3 年度のコース開催予定

- 1 月～3 月の募集期間中に 17 件の申し込みがあった。都道府県を超えた人の移動を伴わないこと、適切な感染対策を行うことを条件に開催を許可することとした。
- 4 月末まで応募期間を延長し、再度マスターインストラクターに周知することとした。
- 第 24 回日本臨床救急医学会および第 49 回日本救急医学会におけるプレコングレスコースは開催しないこととした。

③　ODPEC へのコース開催移管

- 教材およびコース開催マニュアルの最終確認、インストラクター制度とマスターインストラクター認定、今後のオンライン開催の可能性等について議論した。
- 2021 年度のコースは ODPEC が事務作業を担当し、開催マニュアル等について適宜修正を加え、事務業務の移管を進めることとした。

【活動計画】（令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日）

①　令和 3 年度 PEMEC コースの開催調整を行う。
②　ODPEC への運営業務移管をすすめる。

- 令和 3 年 9 月をもって委員会は終了とする。
- 今後、コース運営や教材の改訂を検討し、ODPEC との窓口となる「PEMEC 企画運営小委員会（仮称）」を教育研修委員会のもとに設置する。

一般社団法人　日本臨床救急医学会

【　救急・集中治療における薬剤師研修コース運営小委員会　】

報告日：令和３年６月 10 日

【委 員 長】　服部　雄司

【活動内容】（令和２年４月１日～令和３年３月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

（開催日）　　（議事内容）

令和２年 ８月 27 日（木）「本年度における本コースの開催について」

※Web 開催

2.　報告内容

COVID-19 の感染状況より今年度の開催は、受講者が集まらない可能性が高く、開催は不可となった。
ただし、講義資料の改訂、各種マニュアル作成、医師の講師の選定などを進めていくことを委員と確認した。

【活動計画】（令和３年４月１日～令和４年３月 31 日）

・講義内容の見直し（コースの目標設定、受講の対象者選定を中心に）

・コースの Web 開催、e-ラーニングなどの検討

【　J-MELS 企画開発小委員会　】

報告日：令和 3 年 6 月 10 日

【委 員 長】　三宅 康史

【活動内容】（令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

（開催日）	（議事内容）
適宜	J-CAMELS 理事会を日本産婦人科医会事務局にて日本産婦人科医会母体救命法普及卯寧委員会と合同で開催
開催なし	J-MELS プログラム開発改定委員会

2.　報告内容

- アドバンスコース開催　0 回　受講生数　0 人
- ベーシックコース開催　回　受講生数 約 5100 人
- ベーシック・インストラクターコース開催　26 回　受講生数　約 460 人

ベーシックコースの内容改訂
硬膜外麻酔のトラブル部分を改定
日本救急医学会「自殺企図者のケアに関する検討委員会」と合同で、各方面における妊産婦におけるメンタルケアの活動実績をテキストブックとして 2021 年 4 月に発刊

【活動計画】（令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日）

- ベーシックコース、ベーシックインストラクターズコースガイドブック改定
- JRC2020 ガイドライン発行に伴うアドバンスコースの第 2 版に向けての準備
- 救急隊員、救急救命士を含む病院前コースの開発。
- 麻酔科医、集中治療医向けの全身管理コースの開発。

一般社団法人　日本臨床救急医学会

ＪＴＡＳ2017 企画運営小委員会

報告日：令和３年６月 10 日

【委 員 長】奥寺　敬

【活動内容】（令和２年４月１日～令和３年３月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

開催日：令和３年３月 10 日

議事内容：オンラインコース開催について、コース内容の改訂について

2.　報告内容

・コロナ禍においてもコースの開催ができるようオンラインコースを開発することとなった
・JTAS ガイドブック 2017 を改訂することとなった
・JTAS アプリを改訂することとなった
・ガイドブックおよびアプリの改訂については、新たに編集委員会を立ち上げることとなった

【活動計画】（令和３年４月１日～令和４年３月 31 日）

・委員会開催
・オンラインコース開発

以上

一般社団法人　日本臨床救急医学会

ＩＳＬＳ2018 検討小委員会

報告日：令和３年６月 10 日

【委 員 長】奥寺　敬

【活動内容】（令和２年４月１日～令和３年３月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

・コース開催／内容について

2.　報告内容

・特になし

【活動計画】（令和２年４月１日～令和３年３月 31 日）

・委員会開催（オンライン）

・ODPEC へのコース運営委託について検討

【入院時重症患者対応メディエーター養成小委員会】

報告日：令和３年６月 10 日

【委 員 長】　三宅 康史

【活動内容】（令和２年４月１日～令和３年３月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

委員会は、「脳死下、心停止後の臓器・組織提供における効率的な連携体制の構築に資する研究」（令和二年度厚生労働科学研究費補助金（移植医療基盤整備研究事業）班長 横田裕行 日本体育大学教授）の班会議の一環として開催された。

（開催日）	（議事内容）
８月３日	メディエーター（仮称）の担い手を増やすための方策を考える。資格の認定内容、医療機関での活動内容とその評価法、等の検討。担い手の中心は看護師であることを踏まえ、日本救急看護学会と情報共有
２月 20 日	メディエーター（仮称）養成のための対面式研修会を企画していたが、新型コロナウイルス感染拡大のために対面式では開催できない状況が継続中。そのため早稲田大学法学部和田仁孝教授と共同で Web を用いたオンライン･セミナーを検討、講義とロールプレイの動画作成を企画予定

2.　報告内容

入院の初期段階から患者家族と担当医療チームの間に入り、両者に中立的な第三者として、医療カンファレンスへの参加と情報収集、患者家族に寄り添い不安･不信に対して綿密な話し合いを持つことにより、医療スタッフ側の説明内容、患者家族の理解度の進み具合、現状での問題点を抽出した上で、相互理解を促進する新たな職種となる“入院時重症患者対応メディエーター(仮称)”を養成し、臨床現場に配置する事は、その解決策の一つとして大いに意味がある。 with CORONA の中で、対面式と同様の質を維持したオンライン講習会の開催計画と講義部分の動画作成、ロールプレイで使用するビデオの作成が今年度進行した。

【活動計画】（令和３年４月１日～令和４年３月 31 日）

① オンライン研修会の試行的開催と、その結果を分析した上での研修内容のブラッシュアップ
② 受講生の出席確認のための認証法の確立と、到達度を見極め受講証発行のための認定試験の作成
③ 受講者数を増やして、診療報酬の算定できる程度の活躍の場の準備とその評価法の構築
④ 事務局機能の確立

一般社団法人　日本臨床救急医学会

【NAEMT 教材開発・コース運営小委員会】

報告日：令和３年６月 10 日

【委 員 長】　冨岡　譲二

【活動内容】（令和２年８月 26 日～令和３年３月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

（開催日）	（議事内容）
令和２年 11 月４日	「NAEMT の Pamela Lane 氏とのオンラインミーティング（コロナ禍でのコース開催について・今後の展開について）」
令和３年 ３月 １日	「NAEMT との対談報告・来年度のコース開催について（NAEMT インストラクター養成コース/AMLS コース/GEMS コース）・来年度以降のトレーニングセンター認定について・AMLS テキスト翻訳について」

2.　報告内容

全米 EMT 協会（NAEMT）との覚書（MEMORANDUM OF UNDERSTANDING）」に基づいて、AMLS・GEMS コースの教材開発やコース運営に関する業務を整備するために、本小委員会が設置された

【活動計画】（令和３年４月１日～令和４年３月 31 日）

・NAEMT Course Center の申請・運営に係る手続きを進める
・NAEMT Instructor Preparation Course を主催する
・NAEMT AMLS および GEMS のオンラインコース開催に向けて準備する
・AMLS: Advanced Medical Life Support Third Edition の翻訳を監修する

以上

【　循環器救急疾患の病院前救護検討小委員会　】

報告日：令和3年6月10日

【委 員 長】　石原　嗣郎

【活動内容】（令和2年4月1日～令和3年3月31日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

（開催日）	（議事内容）
令和2年 10月 22日	「委員長挨拶、委員会発足の意義/ コースの内容について」
令和2年 11月 24日	「今後のコース開催について、 現行コースの開催及び委員会メンバーのコース視察、 コース立ち上げまでの流れについて」
令和2年 12月 12日	コース開催(安心院先生視察)

2.　報告内容

・コースの評価で、内容がアドバンスすぎるためもう少しレベルを下げてベーシック版のコースを作成するべきではないかとの意見があり、現在救急隊向けにコース内容を改訂中。

【活動計画】（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

コロナの感染状況次第ではあるが、6月12日に試行コースを行う予定。また、不定期ではあるが、スタッフトレーニングのための演習を感染対策を十分に行いながら、行っていく予定である。また、ベーシック版の作成改訂した上で、どのようにこの活動を普及していくか検討中である。

【　評議員選出委員会　】

報告日：令和３年６月 10 日

【委 員 長】　溝端　康光

【担当理事】　溝端　康光

【活動内容】（令和２年４月１日～令和３年３月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

（開催日）　　（議事内容）

令和２年 10 月 30 日　　「評議員選出について」

会　場：日本臨床救急医学会事務所（株式会社へるす出版会議室）
出席者：溝端康光（委員長）、守谷俊（副委員長）、
　　岩崎安博、木澤晃代、久保田芽里、米田靖
欠席者：荒井勲、西澤健司

2.　報告内容

１）申請状況について
- 締め切り(8 月 30 日)までに 287 名からの申請があった。9 月 30 日を締め切りとして再募集を行い、合計の評議員候補者は 416 名となった。
（医師：273 名、看護師：40 名、救急救命士：21 名、薬剤師：44 名、臨床検査技師：19 名、診療放射線技師：16 名、その他職種：3 名）

２）同一施設からの申請について
- 問い合わせの結果、１名の取り下げがあった。

３）選定のための会員履歴について
- 会員歴（３年以上当法人の正会員である）を満たさない６名を不採用とした。

４）業績について
- 業績不足の該当者はいなかった。

５）関係団体からの推薦について
- 全国消防長会より１０名、日本医師会、日本救急看護学会、日本病院薬剤師会、日本診療放射線技師会より各１名の推薦候補者が提出され、すべて評議員として選出した。日本救急看護学会からの推薦者はすでに本人申請がされていた。

６）選出結果について
- ４１６名の申請者のうち、同一施設・部署からの申請取り下げ１名、会員歴不足６名、申請後の辞退１名の計８名を除いたうえで、推薦候補者１３名を加えた４２１名を評議員として選出した。（医師 273 名、看護師 40 名、救急隊員 21 名、その他職種 82 名）

【活動計画】（令和３年４月１日～令和４年３月 31 日）

令和３年度は評議員選出を行わないため活動計画なし

【　広報委員会　】

報告日：令和３年６月 10 日

【委 員 長】　西池　成章

【担当理事】　冨岡　譲二

【活動内容】（令和２年４月１日～令和３年３月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

（開催日）　　（議事内容）

令和２年 10 月 ２日 「Newsletter 第 10 号の企画とスケジュールおよび SNS の運用について」

令和３年 ２月 16 日 「Newsletter 第 11 号の企画の確認と 12 号以降の企画内容について」

2.　報告内容

令和２年 12 月に Newsletter10 号の発刊を行った。

令和３年５月 Newsletter11 号の発刊を行った。

ホームページ（HP）、Facebook を用いた広報活動を行った。

HP の「お知らせ欄」で発信した情報を，タイムラグなく Facebook に転載するための業務委託契約を(株)へるす出版と結んだ

【活動計画】（令和３年４月１日～令和４年３月 31 日）

広報誌である Newsletter 第 12 号（12 月予定）及び 13 号の発刊（5 月予定）。

HP、Facebook を通じた広報活動を継続する。

【公益信託丸茂救急医学研究振興基金運営委員会】

報告日：令和３年６月 10 日

【委 員 長】　坂本　哲也

【担当理事】　坂本　哲也

【活動内容】（令和２年４月１日～令和３年３月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

令和２年６月 17 日　　「令和２年度給付申請の検討（一次審査）について」（書面開催）

2.　報告内容

新型コロナウイルスの影響により対面での開催が困難であったため、書面開催方式にて本委員会を開催した。

標記基金への申請 3 件について、助成金給付申請採点表および意見書を用いて書面審議した結果、1 名を第一次選考通過者と決定した。

申請番号 1～2 は否決となった。

【活動計画】（令和３年４月１日～令和４年３月 31 日）

1）令和 3 年度についても、昨年同様 書面開催方式にて本委員会を開催し、令和 3 年度給付申請の検討（一次審査）を行う。

一般社団法人　日本臨床救急医学会

【学校へのＢＬＳ教育導入に関する検討委員会】

報告日：令和３年６月 10 日

【委 員 長】　名知　祥

【担当理事】　田中　秀治

【活動内容】（令和２年４月１日～令和３年３月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

（開催日）　　（議事内容）

※新型コロナウイルス感染症の影響もあり開催なし

2.　報告内容

本委員会は「学校教育に実技実施を伴う救命教育を導入・普及する事」を目標に活動している。これは、院外心停止の救命率向上のために活動している国際的なネットワークであるGRA (Global Resuscitation Alliance)が提唱している 10 steps の１つ「学校とコミュニティにおける CPR・AED トレーニングを義務化」に当てはまり、世界の潮流に沿った活動となっている。

例年、日本 AED 財団 school 部会と連携し、本委員会は学術的な役割、school 部会は実務的な役割と役割分担することで、より効果的に学校での救命教育導入の更なる促進を目指した活動を行っている。しかし、令和２年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり例年より縮小した活動となっている。一方で蘇生ガイドライン改定の年度であったため、JRC 蘇生ガイドライン 2020 改定作業に本委員会メンバーが協力した。

＜令和２年度　主な取り組み＞

1.　第 23 回日本臨床救急医学会総会・学術集会でワークショップ「学校での救命教育の本格的な展開に向けて」を開催
   - WEB 開催に変更
   - 学校への心肺蘇生教育導入に関する各地の取り組みを紹介
2.　第 22 回日本救急看護学会学術集会で会員企画セッション「心停止ゼロを目指した救命教育の普及と救急看護師の役割」を企画
   - WEB での抄録閲覧のみに変更
3.　日本 AED 財団 school 部会との連携
   - 委員会は学術的な役割、school 部会はコンテンツやイベントなど実務的な役割
4.　全国学校安全教育研究会との連携継続
5.　学校教員のサポートとなるような精神的サポート・ケアに関わる取り組み
   - バイスタンダーサポート特別委員会と共同で検討

【活動計画】（令和３年４月１日～令和４年３月 31 日）

活動 14 年目を迎える令和３年度（2021 年度）は、新型コロナウイルス感染症によって活動縮小を余儀なくされた現状を立て直し、引き続き学習指導要領の改定を見据えた「学校での救命教育導入の更なる促進」を目標にする。そのためには

１．教員養成課程への BLS 教育の導入促進

２．学校内で BLS 教育を実施するための教員への支援

３．学校安全・危機管理マニュアルへの BLS 導入促進

を具体的目標として、日本 AED 財団 school 部会と緊密に連携しながら教育現場と医療側の連携方法や、教員養成課程や教員に対する授業方法の伝達を検討していく。

一般社団法人　日本臨床救急医学会

自殺企図者のケアに関する検討委員会、PEEC2018 改訂ＷＧ

報告日：令和３年６月 10 日

【委 員 長】三宅 康史

【担当理事】松田　　潔

【活動内容】（令和２年４月１日～令和３年３月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

（開催日）　　（議事内容）

コロナ禍の中開催された自殺未遂者ケア研修(1 回)、8 回に及ぶ対面及び web を用いた PEEC コースに合わせて、各 WG、小委員会がコース前後で開催され、重要事項に関して委員間で意見調整がなされた。

2.　報告内容

厚生労働大臣指定法人「いのち支える自殺対策推進センター」主催の自殺未遂者者ケア研修を１回(1 月 24 日)開催、PEEC コースはコロナ禍の影響で、東京都主催の 3 回は中止、さらに多くの学会併設、医療機関そして自治体主催のコースが中止を余儀なくされた。そのため、あらたに「COVID-19 流行期における PEEC コース再開のための小委員会」を設置し、講義動画の作成、You Tube を用いた期間限定での講義と症例 video の視聴、ZOOM による受講生、ファシリテーター、アシスタントを交えた症例検討を横浜市大トライアルコースで開催した（詳細は小委員会報告にて）。

病院前 PEEC コース（PPST）の活動に関しては、病院前救護におけるケア方法普及 WG からの報告を参照。

妊産婦 WG では、今春に「妊産婦メンタルケアハンドブック」（へるす出版）が刊行予定となっている（詳細は WG 報告にて）。

【活動計画】（平成 31 年４月１日～令和２年３月 31 日）

自殺未遂者ケア研修に関してはこれまで通り、厚労省主導の下で web での完全開催予定。

PEEC-WG：今後、新たな 4 症例を加えたアドバンス PEEC コースの開催に向け準備を進める。

PPST-WG：今後 web 開催に向けたインストラクター養成とテキストブック発行への準備。

妊産婦自殺予防 WG：『妊産褥婦のメンタルケアガイドブック』（B6 版 税込み 3,300 円）が、令和３年４月 21～25 日の日本産婦人科学会(新潟)における展示販売を皮切りに販売開始予定。

COVID-19 流行期コース再開小委員会：トライアルコースで安全性と効果を確認の上、今後全国での早期再開を目指す。

そして今後の**最大の目標**は、新たに**『自殺企図者のレジストリー構築 WG』**を設置し、準備活動を開始することである。具体的には、レジストレーションの項目策定、倫理委員会での承認、限られた数施設での期間を限定した登録トライアルを経て、全国的な救命救急センターに来院し加療を受けた自殺企図者の通年でのレジストリーを構築する。そのために、登録の煩雑さの低減、情報管理の安全性、登録施設へのインセンティブなどを考慮しつつ、今まで本格的に行われることなかった本邦における自殺企図者の実態を把握・分析の上、将来に向け自殺予防のための政策提言と、総合的な治療・環境整備・支援につなげていく。

【　病院前救護における自殺企図者のケア方法を普及させるためのWG　】

報告日：令和3年6月10日

【委 員 長】　橋本 聡

【活動内容】（令和2年4月1日～令和3年3月31日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

（開催日）	（議事内容）
令和2年 5月 26日	「オンラインコース移行について（1回目）」
令和2年 7月 1日	「オンラインコース移行について（2回目）」
令和2年 7月 29日	「オンラインコース移行について（3回目）」
令和2年 8月 31日	「オンラインコーストライアル（ICC　1回目）」
令和2年 9月 26日	「ICCパートのトライアル振り返り」
令和2年 11月 8日	「オンラインコーストライアル（ICC　2回目）」
令和2年 12月 26日	「ICCパートのトライアル2回目振り返り」
令和3年 1月 25日	「オンラインコーストライアル（TALK　1回目）」
令和3年 2月 25日	「オンラインコーストライアル（VD　1回目）」

2.　報告内容

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の蔓延下においてオンライン形式での研修も可能にするため協議を重ね、また、対面コースと同じ質を保つようにブラッシュアップも図った。コースは4つのパートに分かれるが、そのうち3つのパートでオンライントライアルを終了し、質の担保についてはおおむね確認できたと考えている。次回は、3つのパートを通しで開催すること、通し開催を通じて対面コースでは総括として試技を行っていた部分をどのようにオンライン研修に落とし込むかをブラッシュアップする予定である。

【活動計画】（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

オンラインコンテンツとしての形式を確定させ、年度中に複数回のオンラインコース開催を狙う。また、受講者を増やすとともに、関東圏でのPPSTインストラクターの育成を図る。

【　妊産婦の自殺予防のための WG　】

報告日：令和 3 年 6 月 10 日

【委 員 長】　岸　泰宏

【活動内容】（令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

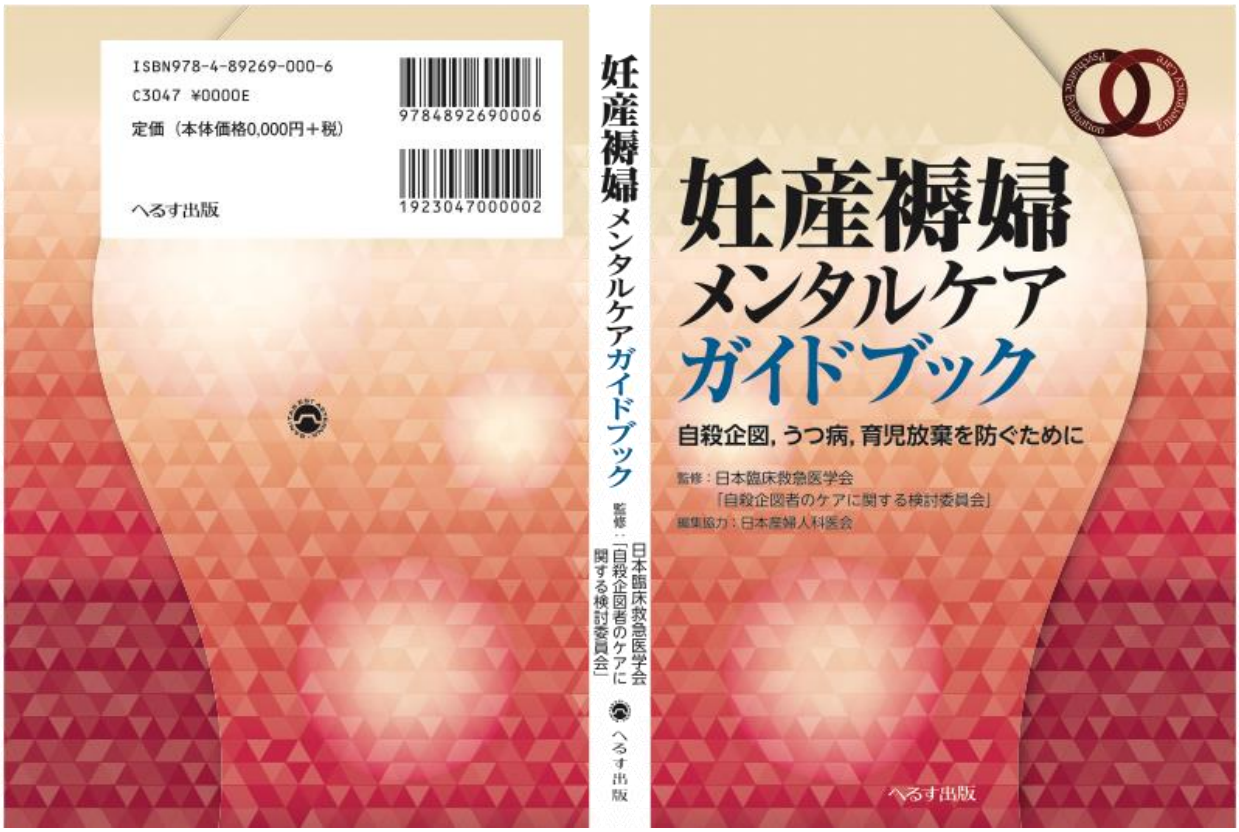
“妊産褥婦メンタルケア・ガイドブック”編集会議を WEB ミーティングならびにメールにて問題点・疑問点が生じた際にその都度行った。

2.　報告内容

“妊産褥婦メンタルケア・ガイドブック”作成完了。

【活動計画】（令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日）

“妊産褥婦メンタルケア・ガイドブック”刊行。



【 COVID-19 流行期における PEEC コース再開のための小委員会】

報告日：令和 3 年 6 月 10 日

【委 員 長】　日野　耕介

【担当理事】　（小委員会・WGは除く）

【活動内容】（令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

（開催日）	（議事内容）
令和 3 年 1 月 31 日	「PEEC オンライン版コンテンツのトライアル開催①」
令和 3 年 2 月 21 日	「PEEC オンライン版コンテンツのトライアル開催②」

※上記に加え、委員会メンバーで構成されるチームコミュニケーションツールを立ち上げ、対面開催時における適切な感染対策のあり方、およびオンライン版コンテンツの開発について、随時意見交換を行なった。

2.　報告内容

小委員会の承認後より、対面開催時における適切な感染対策のあり方について協議を行った。その後、AC2020 からリリースされたガイドラインに準拠する形で PEEC コースとしての開催要領を作成した。COVID-19 感染症の拡大傾向が見られない複数の地域では、この開催要領を遵守した形での対面コースを開催し、感染者を発生させることなく終えることができた。

また、小委員会内で、オンライン版コンテンツの開発も行なった。上記の 2 回に渡り、PEEC コース修了者を模擬受講者とするトライアルコースを開催。問題点を抽出し修正を加えたうえで、1 ブース開催による PEEC オンライン版コース開催に関わるコンテンツを確定。令和 3 年には、横浜・熊本で合計 3 回のオンラインコース版コースを開催した。

【活動計画】（令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日）

① 対面開催コースにおける開催方法のブラッシュアップについて
引き続き、COVID-19 感染症による影響が最小限にとどまる地域では、対面による PEEC コースを開催する余地はあるかもしれないが、引き続き最大限の注意を要する。状況に則した適切な形での感染対策については、引き続き議論が必要である。

② PEEC オンライン版コースの普及について
COVID-19 感染症の拡大状況に左右されにくいオンラインコンテンツについては、引き続き開発を行い、更なる普及を目指す。具体的には、複数ブース開催の方法について確立し、コース 1 回あたりの受講者の増加を実現させること、また全国で安定的にコースが開催されるための方略について、一般社団法人 臨床教育開発推進機構(ODPEC)などとも協議のうえ検討していく予定である。

【　国際委員会　】

報告日：令和 3 年 6 月 10 日

【委 員 長】　西内　辰也

【担当理事】　田中 秀治

【活動内容】（令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日迄）

1. 委員会開催日および議事内容

活動なし。

2. 報告内容

特記事項なし

【活動計画】（令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日）

第 23 回日本臨床救急医学会総会・学術集会と同時開催を予定していた The 6th EMS Asia 2020 Tokyo が、新型コロナウィルス感染拡大に伴い本年 9 月に延期となった。しかしながら、4 月 25 日から 5 月 11 日までの期間、東京、大阪、兵庫、京都の 4 都府県を対象に緊急事態宣言が発令されるなど、本報告書記載時（2021 年 4 月 23 日）においても感染の終息が期待できない状況が持続している。こうした状況を踏まえ、The 6th EMS Asia 2020 Tokyo も来年春頃に再延期となる見通しであることが同会会長の田中秀治担当理事より伝達があった。

当委員会は The 6th EMS Asia 2020 Tokyo の Organizing Committee としての役割を担っており、本年度は再延期された同会の開催に向けた活動を行う予定である。第 24 回日本臨床救急医学会総会・学術集会の会期に合わせて、本年度第一回目の委員会を開催する予定である。

【　救急認定薬剤師認定委員会　】

報告日：令和３年６月 10 日

【委 員 長】　添田　博

【担当理事】　畝井　浩子

【活動内容】（令和２年４月１日～令和３年３月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

（開催日）	（議事内容）		
令和２年６月 25 日（木）	審査委員会	：	中止
令和２年７月 30 日（木）	試験委員会	：	中止
令和３年８月 23 日（日）	認定委員会	：	中止
令和３年１月 22 日（金）	認定委員会	：	活動計画、制度規程の変更に関する検討

2.　報告内容

・第９回認定審査：　中止のため新規認定者なし
　令和２年８月 23 日（日）認定試験（昭和大学）：中止

・第１回，第５回認定更新：更新期間を１年間延長

・救急認定薬剤師総数 2247 名（令和３年３月現在）
・救急認定薬剤師講習会の開催：　８月 23 日（日）　昭和大学　中止
　　11 月頃　岡山大学　中止

【活動計画】（令和３年４月１日～令和４年３月 31 日）

・第 10 回認定審査：令和３年６月～７月（申請書類の審査をもって暫定認定審査とする）
・第１回，５回，６回 認定更新：更新申請期間　令和３年３月１日～6 月 30 日
・講習会：令和３年 ９月　４日（土）Zoom Webinar
　　テーマ：「体液管理、栄養管理、予防的薬物療法」
　　講師：　岩崎　泰昌先生、玉造　竜郎先生
・日本集中治療医学会との連携
・救急認定薬剤師に関するアンケート調査
・救急専門薬剤師に関する検討

一般社団法人　日本臨床救急医学会

【緊急度判定体系のあり方に関する検討委員会】

報告日：令和３年６月 10 日

【委員長兼担当理事】　森村　尚登

【活動内容】（令和２年４月１日～令和３年３月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

（開催日）	（議事内容）
令和２年５月 4-5 日	「COVID-19 患者に対する緊急度・重症度判定基準 Version 1」の作成（メール会議）

2.　報告内容

「COVID-19 患者に対する緊急度・重症度判定基準 Version 1」を作成し、令和２年５月７日に理事会に提出、承認を得て、5 月 12 日に日本救急医学会合同提言の形でホームページから発信した。

同基準は、プレホスピタル、特に入院調整本部、保健所、宿泊施設療養、電話相談、などにおける活用を目的に作成した。緊急度の判定因子（スケール）は、発症からの時期、重症化リスクの有無、重症度（症状の強さ）とした。作成にあたっては、以下の事項を考慮した。

① 発症からフェーズを３つに分類：特に重症化しやすいと考えられる時期として発症数日後から 10 日前後（フェーズ 2）を最初に設定し、それより前をフェーズ１、以降をフェーズ３とした。数字の根拠として、先行して出されている厚労省研究班による「診療の手引き（Version 1）」の記載による「10 日」や、先行論文データ（発症から呼吸苦までの期間の中央値が８日（四分位範囲６日-13 日）（Lancet 2020; 395: 497-506））を参考にした。そのほか、人から人への感染について、症状発症まで 80％のコホートが 10 日で、また 95％が罹 14 日で感染したという報告等も参考にした。なお、以降委員会委員、理事の意見交換を経て、最終的には実臨床例データに鑑み、「約２週間」までに変更した。

② 重症化リスク因子について、米国 CDC から引用した。
https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/69/wr/mm6913e2.htm?s_cid=mm6913e2_w
https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/need-extra-precautions/people-at-higher-risk.html

③ 重症度については、総務省緊急度判定プロトコル Version 2 ならびに前述した厚労省研究班の診療の手引きの記載を引用した。この際、同手引きにある、「緊急性の高い症状」は重症度の中で「重篤」に該当させた。

④ 重症化のスピードの目安として、8 時間以内、24 時間以内、の記載も検討されたが、未だエビデンスの集積に乏しいと考え、今回は記載しなかった。

【活動計画】（令和３年４月１日～令和４年３月 31 日）

前年度に引き続き下記についての活動を計画する。

① 新型コロナウイルス感染症サージ期における緊急度に基づく入院優先度判断基準策定特別委員会との連携に基づく「COVID-19 患者に対する緊急度・重症度判定基準 Version 1」の改訂

② 日本救急看護学会との連携（合同シンポジウムの開催ほか）

【　研究倫理委員会　】

報告日：令和3年6月10日

【委 員 長】山勢　博彰

【担当理事】藤見　聡

【活動内容】（令和2年4月1日～令和3年3月31日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

活動無し

2.　報告内容

活動無し

【活動計画】（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

研究倫理に関する新たな検討事項がない限り，活動計画は特になし。

【　小児救急委員会委員会　】

報告日：令和3年6月10日

【委 員 長】　問田 千晶

【担当理事】　守谷 俊

【活動内容】（令和2年4月1日～令和3年3月31日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

（開催日）	（議事内容）
令和2年7月28日	「前年度の活動内容と今年度の活動方針について」
他メール審議多数	「WG活動状況の共有および執筆・編集協力について」

2.　報告内容

- 第23回日本臨床救急医学界・学術集会 パネルディスカッション「小児傷病者を対象とした病院前救護と救急診療」を題材に、8名の演者とともに小児病院前救護および事故予防における現況と課題を議論した。
- 小児救急連絡協議会を通じて、小児救急に係る学会活動について他学会との情報交換を行なった。
- 「救急隊活動における小児傷病者対応のポイント」を題材に、プレホスピタル・ケア[東京法令出版]に全6回連載を掲載し、救急隊員にむけて小児病院前救護に関する情報を発信した。
- 書籍「小児版 臓器提供ハンドブック」（ヘルス出版）の編集協力を、日本臨床救急医学会を代表して実施した。
- 小児病院前救護トレーニング(PPMEC)について、オンライン教材の作成およびオンラインコース開催の方向性の確認をWGと連携して行なった。
- 病院前救護に必要な小児用携行資機材について、現状調査の実施および推奨版セットの作成をWGと連携して行なった。

【活動計画】（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

- 第24回日本臨床救急医学会・学術集会において、当委員会企画のパネルディスカッションを実施し、小児病院前救護を含めた小児救急診療の質の向上につなげる。
- WG成果物（PPMECオンラインコース・病院前救護における小児用資機材セット）ついて他学会などへ意見聴取できる準備を整え普及にむけた調整を実施する。
- 病院前救護における小児診療の標準化に関する書籍出版またはwebでの情報公開を通じて、小児救急診療に関わる救急隊・医療従事者の知識・技術の向上につなげる。

一般社団法人　日本臨床救急医学会

【病院前救護における小児緊急度判定および小児救急診療を普及させるための WG】

報告日：令和 3 年 6 月 10 日

【委員長】六車 崇

【活動内容】（令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日迄）

1. 委員会開催日および議事内容

（開催日）	（議事内容）
令和 2 年 7 月 28 日	「前年度の活動内容と今年度の活動方針について」
Web 会議(5/28, 6/26,3/23)	「小児病院前救護トレーニングコース(PPMEC)について」
メール審議	「病院前救護の小児用携帯資機材について」

2. 報告内容

- 小児病院前救護トレーニングコース(PPMEC)・オンラインコースを開催し、合計 109 名に受講していただき概ね好評を得た。
  - 第 10 回 PPMEC オンラインコース（令和 2 年 8 月 27 日開催）　受講生 41 名
  - 第 11 回 PPMEC オンラインコース（令和 3 年 3 月 10 日開催）　受講生 32 名
  - 第 12 回 PPMEC オンラインコース（令和 3 年 3 月 11 日開催）　受講生 36 名
- 病院前救護における小児用資機材の標準化
  - 全国消防本部への小児資機材装備状況についてのアンケート調査の実施
  - 病院前救護における医師同乗時に必要な小児用資機材装備状況についてのアンケート調査の実施
  - 上記 2 つの調査にもとづく病院前救護における小児用資機材推奨版セットの作成

【活動計画】（令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日）

- 小児病院前救護トレーニングコース(PPMEC)
  - 現地およびオンライン開催を通した教育プロダクトの完成
  - With および After コロナの時代に求められるオンラインコースの開発
  - 持続可能なコース開催方式の検討
  - 学会発表や学術誌での情報提供を通じた普及活動の実施

- 病院前救護活動における小児用緊急度判定基準および資機材の標準化
  - 病院前救護で使用可能な小児用緊急度判定基準および小児用携行資器材セット・資器材選択用ツールの推奨版の完成

【患者安全推進検討委員会】

報告日：令和３年６月 10 日

【委 員 長】　藤谷茂樹

【担当理事】　冨岡譲二

【活動内容】（令和２年４月１日～令和３年３月 31 日）

1.　委員会開催日および議事内容

（開催日）　　（議事内容）

開催なし

2.　報告内容

開催なし

【活動計画】（令和３年４月１日～令和４年３月 31 日）

なし

【患者安全推進検討委員会 RRT-WG】

報告日：令和３年６月 10 日

【委 員 長】　川原　千香子

【活動内容】（令和２年４月１日～令和３年３月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

今年度は、委員会開催なし

2.　報告内容

昨年度当学会並びに日本集中治療医学会評議員施設に対して、Rapid Response System の運用と教育の実際について、調査を実施し、2020 年度の学術集会にて発表した。

Code Blue に対する対応体制やチーム運用はほとんどの施設で整備されているが、その検証や医療安全管理部門との関係については、各施設の事情によりさまざまであった。

また、本来の Code Blue を予防することを目的とした RRS については、Code Blue Team が兼務している施設も少なくなく、活動の方法も多種多様であった。この原因として、物理的な人員不足に加え、対応能力、受け入れ病棟のキャパシティが挙げられた。最後に、教育面をみると、蘇生教育はほとんどの施設で病院職員全体に実施されていたが、Code Blue を予防するための教育は、標準化したものはなく、その取り組み、体制も施設に任せられていることが明らかになった。

RRT メンバー対象の教育はいくつかの施設、学会で実施されているが、要請者に特化した標準化教育はテストケースでとどまっている。

【活動計画】（令和３年４月１日～令和４年３月 31 日）

令和３年６月～9 月：委員会を WEB にて開催

令和３年 10 月～12 月：RRS の教育について当学会として取り組む仕組みを検討

令和４年１月～3 月：教育方法を具体的に提示（E-Learning を視野に入れる）

一般社団法人　日本臨床救急医学会

【傷病者の意思に沿った救急現場での心肺蘇生のあり方に関する検討委員会】

報告日：令和3年6月10日

【委 員 長】　丸川　征四郎

【担当理事】　守谷　俊

【活動内容】（令和2年4月1日～令和3年3月31日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

（開催日）　　（議事内容）

活動なし

2.　報告内容

提言を契機に、各地域で、傷病者の意思に沿った救急現場での心肺蘇生のあり方についての議論が進んでいる。総務省消防庁においても、当課題についての検討会が開催され、報告書が作成された。

第23回学術集会で関連の２つのパネルディスカッションが企画

パネルディスカッション

・「救急隊による蘇生中止・着手せずはどの程度普及しているのか（PD11）

・「救急医療における ACP を尊重した救急医療体制」（PD12）

“傷病者の意思に沿った救急現場での心肺蘇生等のあり方について～当学会の提言と広がり～”など多数の取り組みの発表あり。

【活動計画】（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

・　当委員会の作成した提言が、消防庁や各地域での検討の大きなきっかけとなり、各地域の取り組みにつながった。

・　当委員会としての役割は一定程度果たせた。

一般社団法人　日本臨床救急医学会

法執行機関との医療連携のあり方に関する検討委員会及び、同委員会研修コース等検討小委員会

報告日：令和３年６月 10 日

【委 員 長】　布施　　明

【担当理事】　冨岡 譲二

【活動内容】（令和２年４月１日～令和３年３月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

［委員会］

［小委員会］

ともにコロナ禍のため、開催せず。

2.　報告内容

● コンパクトな手引書を作成→2020 年３月 30 日　へるす出版より発刊

➢　監修：一般社団法人　日本臨床救急医学会

●　編集：日本臨床救急医学会　本委員会、小委員会

[主な項目]

第１章　事態対処医療について

１．事態対処医療の手順と他の応急救護・外傷プログラムとの整合性について

２．諸外国の状況との比較

３．本書の使いかた

第２章　事態対処現場

１．外傷対応の基本

２．事態対処現場での傷病者対応の考え方

（１）ゾーニング、連携、安全管理・・・などのポイントを CSCA で

第３章　傷病者評価と手技

１．傷病者評価（救急隊への引継ぎを含む）

２．止血法

３．気道確保

４．救出・離脱、後送、搬送

第４章　そのほかに考慮する事項

１．環境への対処（暑熱など）

２．IFAK　－使用方法など－

第５章　事態対処医療の現状

１．事態対処医療の研修・訓練、実働の実際

２．現場における事態対処医療の実践のための講習案

【活動計画】（令和３年４月１日～令和４年３月 31 日）

● 手引書が刊行されたことにより小委員会の役割は果たせたため、小委員会は一旦終了としたい

● コロナ禍における国家的イベントにおける IMAT（事件現場派遣医療チーム）等事態対処医療の実働チームの養成方法の検討

【蘇生ガイドライン委員会 2020 検討委員会】

報告日：令和 3 年 6 月 10 日

【委 員 長】真弓　俊彦

【担当理事】田邉　晴山

【活動内容】（令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

（開催日）　　（議事内容）

全体としての委員会開催はなし

2.　報告内容

【活動計画】（令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日）

一般社団法人　日本臨床救急医学会

蘇生ガイドライン 2020 委員会
二次救命処置 WG

報告日：令和 3 年 6 月 10 日

【委 員 長】真弓　俊彦

【活動内容】（平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

委員会の開催なし
しかし、JRC ガイドライン 2020 作成のための WEB 会議にて、委員に参加いただき、ガイドラインを作成した。

2.　報告内容

G2020 に向けた CoSTR2020 で公表されたものについて、順次翻訳公開している。
以下の内容について翻訳した。
・Post-cardiac arrest seizure prophylaxis and treatment- TF Systematic Review
・Electrophysiology for prognostication- TF Systematic Review
・Imaging for prognostication-TF Systematic Review

JRC ガイドライン 2020 の ALS 部分の作成に参画し、現在、案を公開し、パブリックコメントを募集している。

【活動計画】（令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日）
パブコメを参照に、JRC ガイドライン 2020 を確定し、公開、出版する。
蘇生方針を変更するような ALS に関する知見が出れば、ガイドラインの変更を検討する。

一般社団法人　日本臨床救急医学会

蘇生ガイドライン 2020 委員会
ファーストエイド WG

報告日：令和 3 年 6 月 10 日

【委 員 長】田中秀治

【活動内容】（平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

対面での委員会の開催なし。麻酔学会からの選出委員と協力して本学会の WG メンバーが JRC ガイドライン 2020 ファーストエイドについて検討した。概ね 200 年 2 月より 2 週に 1 回の割合で WEB 会議を開催し計 20 回近くの会議で JRC ガイドライン 2020 を作成した。

2.　報告内容

G2020 に向けたファーストエイドについての CoSTR2020 で公表されたものについて、
翻訳し JRCHP にて公開しパブリックコメントを募集している。
今後、JRC ガイドライン 2020 の FA 部分の印刷版を提出する予定

【活動計画】（令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日）
パブコメを参照に、JRC ガイドライン 2020 を確定し、公開、出版する。
また年度を変え、FA に関する新知見が提出されれば、ガイドラインの変更を検討する。

一般社団法人　日本臨床救急医学会

バイスタンダーサポート検討小委員会

報告日：令和３年６月 10 日

【委 員 長】　石井　史子

【活動内容】（令和２年４月１日～令和３年３月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

令和２年　８月　５日

令和２年 10 月 ７日

いずれもウエブ開催で、活動計画に従った議論と JRC 蘇生ガイドライン 2020 に資するための提言を公開するための議論を行った。

2.　報告内容

「バイスタンダーとして活動した市民の心的ストレス反応をサポートする体制構築に係る提言 2020」を 12 月 28 日付けで HP に公開した。それを受けて JRC 蘇生ガイドライン 2020 の EIT ドラフト版にも提言が引用された。

第 23 回本学会委員会企画パネルディスカッション「バイスタンダーサポート体制」を委員会メンバー中心に行い裾野を広げる事ができた。

【活動計画】（令和３年４月１日～令和４年３月 31 日）

1)バイスタンダーの心的ストレスの実態調査の結果をまとめる

2)バイスタンダーの心的ストレスについて、市民や医療従事者の認識を広めるための方策の検討を行う。

3)バイスタンダーへのサポートをするための具体的なシステム作り

※学校への BLS 教育導入検討委員会と共同で、学校教員のサポートとなるような精神的サポート・ケアに関わる取り組みを検討する

妊産婦蘇生ＷＧ

報告日：令和３年６月 10 日

【委 員 長】山畑　佳篤

【活動内容】（平成 31 年４月１日～令和２年３月 31 日迄）

1.　委員会開催日および議事内容

なし

2.　報告内容

なし

【活動計画】（令和２年４月１日～令和３年３月 31 日）

なし